

9月
議会定例会

財政健全化判断比率の改善を報告 新ALITが着任

9月議会定例会が、9月13日から23日までの実質7日間にわたり開催され、条例の制定や平成28年度各会計補正予算案などの16議案と報告2件の計18件が提案、可決されたほか、平成27年度歳入歳出決算について認定されました。



行政報告

◆稲作の作柄状況ほか農業関係

8月22日現在における能代山本地域の水稻の生育状況は、1平方m当たり穂数は469本と、平年と比較すると5%ほど多くなっております。1穂当たりの着粒数は72・0粒で平年比96%、1平方m当たりの着粒数は3万4千粒と平年並みで、「有効茎歩合が高まり、穂数が確保

されたため、1平方m当たり着粒数はやや多め」となっている状況です。

稼働して5年目となりましたJAあきた白神カントリーエレベーターの町内農家の利用状況は、28戸の農家で作付け面積の16・3%、75・0haの見込みとなっております。

今年の米の概算払金額は、9月9日に開催された全県JA組合長会議で決定されておりますが、JAあきた白神独自の加算金も含めた金額は、検討のうえ9月26日に発表予定とのことであります。

今年、昨年に引き続き、主食用米から飼料用米などへの作付け転換を強化した結果、作付面積は絞られ、需給が改善しているとの見方から、前年産に続き、概算金を高く設定する産地が増えるという観測がなされております。

今年で7年目を迎えたリンドウは、栽培面積349a（うち採花面積314a）で、8月24日現在において、出荷本数は

308、220本と昨年同期より20、510本増加しておりますが、販売額は9、465千円で、昨年同期と比較して2、873千円ほど下回っております。

これは、暖冬による出荷時期の前倒しと、他産地の集中出荷による単価の低迷によるものであります。今後は、秋彼岸に向けて単価の改善を期待して販売に力を入れていくこととなります。また、能代地区において、1団体3戸の農家で95aの作付けにより、今年から一部で出荷が始まっております。今後JAでは、出荷市場を増やし、「あきた白神りんどう」の産地化を進めていく予定であります。

次に、白神ラムの飼育状況についてであります。現在、子羊は110頭で、うち15頭を繁殖育成用として育て、ホグゲツト向け15頭、ラム肉出荷用80頭となり、他にホグゲツト用として15頭の出荷を予定しております。繁殖綿羊は122頭となっております。

また、ニホンザルによる農作物の被害防止についてであります。4月中旬から出沒が確認され、随時追い払いにあつており、鳥獣被害対策実施隊による、週

末の巡回や檻・かかしの設置により、これまで10頭捕獲しており、昨年同期と比較して1頭の増となっております。

ツキノワグマにつきましても、5月中旬から例年以上に出沒が確認され、農作物の被害が発生した箇所や、人的被害が懸念される場所にクマが出沒した際、檻の設置や巡回を行い、現在まで5頭捕獲しております。また、看板設置や防災行政無線を活用した広報により、注意を促しておりますが、8月上旬に町民がクマと遭遇し、腕や顔面に軽傷を負う事故が発生いたしました。直ちに警戒パトロールを強化いたしました。捕獲には至っておりません。これから、きのこ採りのシーズンとなり、山に入る機会が増え、クマと遭遇する確率も高くなることから、今後も広報による注意喚起をして参りたいと思っております。

◆まち・ひと・しごと創生 藤里町総合戦略の検証について

総合戦略については、これまでの報告のとおり、今年1月に策定し、人口ビジョンに掲げた目標人口の実現を目指し、仕事、移住、子育て、地域の4つの政策分野に38プロジェクトを盛り込み、プロジェクトごとに数値目標を掲げ、昨年度より事業に取り組んでいるところであります。まち・ひと・しごと創生法では、この数値目標を基に実施した施策・事業に対